

令和4年3月定例会一般質問

未来につながる教育について

市長が就任されてから2年が経過しました。教育については制度上、教育委員会に任されている部分があるとはいえ、予算編成権は市長にあります。市長がどのように高砂市の子供たちへの教育について考えられているか、伺いました。

市長の教育に対する考えについて

すべてのこどもたちに、人を思いやる心、ふるさと高砂を愛する心を養って欲しい、夢や希望を持って、自発的に行動し、未来を切り拓いて欲しいというのが、私自身の願い。総合教育会議において、私と教育委員会との認識は共有できていると考えている。実際の教育については、まずは専門家である現場の先生方や教育委員会の方々に任せているが、教育大綱や市民の考え、私自身の見解から大きく外れることがないよう、市長として見守っていく所存である。令和4年度予算編成については、限りある予算ではあるが、学校司書の配置、スクール・サポートスタッフの継続配置、情報推進事業の拡充、感染症対策の充実及び学校施設の改修等において、市長として査定した。



市長

郷土愛育む教育について

高砂で育つこどもたちに、教育の側面からどのように郷土愛について捉えているのか、伺いました。

現状の取り組み

謡曲合唱団から謡曲「高砂」を学んだり、**トライやる・ウィーク**で地域のために何ができるのか考え、取り組むこと、**「町たんけん」**で自分の住む地域のよいところを見つける取り組みなどをおこなっている。また、令和2年度末には、小学校3・4年生が使用する社会科副読本を全面改訂し、高砂市の伝統、文化、産業等について詳しく学ぶことができる内容となっている。



高砂市の特徴として、どうしても歴史が中心になりがちではありますが、最も大切なのは、先生や身近な大人がどれほどまちを愛しているかが重要であると感じています。今後もそういったことを大切にしながら、教育に向き合いたいと思います。

乳幼児の予防接種について

乳幼児の予防接種予診票については、あらかじめ氏名や生年月日等が印字されたものが配布される先進自治体があります。毎度保護者が同じ情報を記入する負担を軽減するため、高砂市でもあらかじめの印字ができないか伺いました。



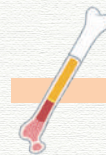
市の考え

氏名の記入欄が小さいなどの指摘については、改善していきたい

予診票については、長期保管における紛失防止や複数のお子さんがいらっしゃる家庭での整理の利便性を考え、小学校を卒業するまでの10種類28枚を冊子形式で綴っている。予診票にあらかじめ個人情報を印字するとなると、綴り形式にできなくなり、再交付等に要する時間が大幅に増えることになるため、難しい。



今回の質問では、予診票の記入欄の幅しか前に進めることは出来ませんでした。しかしながら、あらかじめの印字については今後デジタル化が進む中で継続して求めていきたいと考えています。



骨髄ドナー助成について

骨髄ドナー助成については、骨髄提供者の負担軽減のため、骨髄等の提供を行った人への助成を行う市町に対して令和3年度より県が補助を出しています。この制度は市町が助成制度を設けていることが必要となりますが、高砂市ではまだ制度が設けられていません。県の制度があるにもかかわらず、市町が制度を設けているかどうかによって市民が利用できるか否かが決まってしまう状況に対し、高砂市でも制度を設けることができないか伺いました。

市の考え

県内13市町が令和3年度より助成を始め、令和4年度も数市が始めると聞いているものの、高砂市では令和4年度も実施の予定はない。大切な制度であるということは理解しているため、今後、他市の状況も踏まえて検討していきたい。



居住する市町によって、県の制度が使えるか否かが変わる、そして高砂市では使えないということは非常に残念に思います。制度の重要性について市当局とも共有できたと感じているため、今後、高砂市でも助成が実施されるよう、引き続き求めていきます。